

Tokyo Tokyo FESTIVALの総括及びレガシーについて

文化プログラム推進部会

報告書

令和4年3月31日

東京芸術文化評議会 文化プログラム推進部会

資料の構成

第1章 Tokyo Tokyo FESTIVALの実施総括・レガシー	…2ページ
Tokyo Tokyo FESTIVAL及び本報告書の位置づけ	…2ページ
文化プログラム実施に当たっての考え方	…3ページ
コンセプトコピー及びステートメント	…4ページ
Tokyo Tokyo FESTIVALの主な取組	…5ページ
Tokyo Tokyo FESTIVALの実績と検証	…8ページ
Tokyo Tokyo FESTIVALの実施総括	…11ページ
Tokyo Tokyo FESTIVALのレガシー	…12ページ
第2章 Tokyo Tokyo FESTIVALの振り返り	…13ページ
Tokyo Tokyo FESTIVALの構成	…13ページ
芸術文化の可能性にチャレンジする	…14ページ
東京がもつ文化の力を活かす	…20ページ
様々な文化活動をサポートする	…24ページ
都内各地を文化で盛り上げる／Tokyo Tokyo FESTIVALプロモーション・ブランディング事業	…25ページ
感染症を踏まえた事業の展開	…26ページ
第3章 参考資料	…28ページ
Tokyo Tokyo FESTIVALの経緯	…28ページ
東京芸術文化評議会 文化プログラム推進部会 専門委員名簿	…32ページ
文化プログラム推進部会の実施状況	…33ページ

Tokyo Tokyo FESTIVAL及び本報告書の位置付け

- 都は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、東京の芸術文化の魅力を高め、力強く発信することを目指し、リオデジャネイロ2016大会後から2021年の東京2020大会終了までの期間に、独自の文化プログラムを展開した。これが **Tokyo Tokyo FESTIVAL** (TTF) である。
- 国内外のアーティストや芸術文化団体等の協力を得て、斬新で独創的なプログラムや、誰でも身近に芸術文化に触れ、気軽に参加できるプログラムなど16万件以上の多彩なプログラムを実施してきた。
- 新型コロナウイルスの感染症の影響により、東京2020大会は1年延期され、TTFのプログラムもほとんどが延期となった。また、国内外から多くの人を集めることも難しくなり、積極的なプロモーション活動も控えざるを得ないなど困難な状況が続いたが、感染対策を徹底しながら、工夫を凝らし、東京の芸術文化の灯を絶やさぬよう取り組んできた。
- 本報告書は、TTFを推進するために設置された文化プログラム推進部会における、TTFの総括及びレガシーについての議論を取りまとめたものである。

文化プログラム実施に当たっての考え方

- スポーツだけでなく文化の祭典でもあるオリンピック・パラリンピック競技大会は、文化の発展にとって大きなチャンスであった。
- そのため、都は東京2020大会の開催に向けた取組を通じて得られた成果を、レガシーとして次世代に継承することを目指し、東京芸術文化評議会での議論を踏まえ、「**都が主導する文化プログラムの基本方針**」を策定した。
- 基本方針では、「**オリンピック・パラリンピックの精神に基づき、史上最高の文化プログラムを展開するとともに、文化の面でのレガシーを2020年以降に継承し、世界一の文化都市東京の実現につなげていく**」という最終目標に向け、7つの柱からなる「**都が主導する文化プログラムの考え方**」及び**文化プログラム実施後の目指す姿**（レガシー）を示し、これらを踏まえ、戦略的に事業を展開してきた。

<都が主導する文化プログラムの考え方>

- (1) 伝統と現代の共存をはじめとした独自性・多様性を持つ東京の文化を世界に発信
- (2) 国際的な芸術文化交流を積極的に展開
- (3) 障がい者、高齢者、子供、外国人等、国内外のあらゆる人々が参加・交流できる機会の創出
- (4) 新たな発想を取り入れた芸術文化活動の推進
- (5) 次世代を担う人材の育成
- (6) 都市全体で文化的な祝祭感を創出
- (7) 国、他の自治体、芸術文化団体等との連携・協力によるオールジャパンでの気運醸成

<文化プログラム実施後の目指す姿>

- (1) 都民の芸術文化に触れる機会の増大
- (2) 地域経済や観光の活性化
- (3) 世界から「芸術文化都市東京」として評価
- (4) 人材や芸術文化団体等の成長
- (5) 芸術文化の力が社会課題の解決に貢献

第1章 Tokyo Tokyo FESTIVALの実施総括・レガシー コンセプトコピー及びステートメント

また、TTFの展開に当たっては、先の考え方を踏まえたコンセプトをより多くの人に分かりやすく伝えるため、端的に表したコピーと、コピーの内容を紐解き説明したステートメントを作成し、特に、コピーはロゴマークと組み合わせて様々な広報媒体に活用することで、Tokyo Tokyo FESTIVALの意義を広く発信した。

コンセプトコピー

(日) 文化でつながる。未来とつながる。

(英) THE FUTURE IS ART

ステートメント

東京はアートのかを信じている。

それは私たちのこれからを描く力だ。
それは違いを受け止め、通じ合おうとする力だ。

2020年。
東京はその力を世界に示したいと思う。

伝統と現代が、
そして世界中の文化が交差する
東京だからできること。

Tokyo Tokyo FESTIVAL
それは、アートでつながる
未来とつながる文化の祭典。

<ロゴと組み合わせたの使用例>



Tokyo believes in the power of art:
the power to shape our future,
the power to accept and celebrate our differences.

Come 2020,
the world will discover the wonders of art,
in a city where tradition meets innovation,
where cultures interact.

Tokyo Tokyo FESTIVAL.
Explore a future of possibilities with art.

Tokyo Tokyo FESTIVALの主な取組①

芸術文化の可能性にチャレンジする（「文化の祭典」ならではのTokyo Tokyo FESTIVALを象徴するプログラム）

Tokyo Tokyo FESTIVALスペシャル13

- コロナ禍の影響を受けたが、工夫を凝らしながら事業を再構築し、13企画すべてを実現。**ダイナミックで大胆な作品を展開するなどして、多くの注目と話題を集めた。**
- **コロナの影響により新たな表現・発信方法に挑戦**したことで、アーティストにとってもステップアップにつながる機会となった。
- 国内外で活躍する様々なジャンルのアーティストによる一流の作品やパフォーマンスを街なかで多く展開し、都民が身近に芸術文化に触れるきっかけ作りに寄与した。



オペラ夏の祭典

- 東京文化会館と新国立劇場が初めて共同制作を行った国際的なオペラプロジェクトとして、**各地の劇場と連携し展開**
- 無料イベントの開催や地域等と連携した広報展開を通して、**多くの方がオペラの魅力に触れる機会を創出した。**



TURN

- 障害の有無などの違いを超えた多様な人々の出会いによる相互作用を、表現として生み出すアートプロジェクト
- 「人と違う」ことに価値を見出して社会へ発信。**一人ひとりが異なる“その人らしさ”を尊重できる社会の創造を目指す取組を継続的に行った。**



東京キャラバン

- 「人と人が交わるところに新しい文化が生まれる」というコンセプトを掲げ、国内外を巡り、その土地の歴史や文化を学びながら創作に取り入れ、新しい表現を生み出した。



サラダ音楽祭 TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL

- 誰もが音楽の楽しさを体感・表現できる音楽祭として、**赤ちゃんから大人まで楽しめるフレッシュで多彩なプログラムを展開**
- 感染対策の工夫も凝らした上で、**来場者が参加・体験できる多彩な企画を実施した。**



Tokyo Tokyo FESTIVALの主な取組②

東京がもつ文化の力を活かす（都立の美術館・博物館・ホールで行われる展覧会や公演、まちを舞台としたアートイベント）

六本木アートナイト

- 六本木のまちを舞台に、多様な作品を点在させ、非日常的な体験を創出
- 大都市におけるまちづくりの先駆的なモデルの創出を目的とする「アートの饗宴」として開催



東京大茶会

- 都内の野外博物館と庭園で、様々な流派が一堂に会する大規模な茶会を開催し、茶道に馴染みのない方や外国の方でも気軽に楽しみながら、お茶の文化とそれを育んできた江戸・東京の文化を国内外に発信



伝承のたまてばこ～多摩伝統文化フェスティバル～

- 八王子市をはじめとする多摩地域の文化資源を活用し、まちなかでの演奏会や野外ステージを舞台にした本格的な公演など、多彩な伝統文化・芸能の魅力を発信するフェスティバルを開催



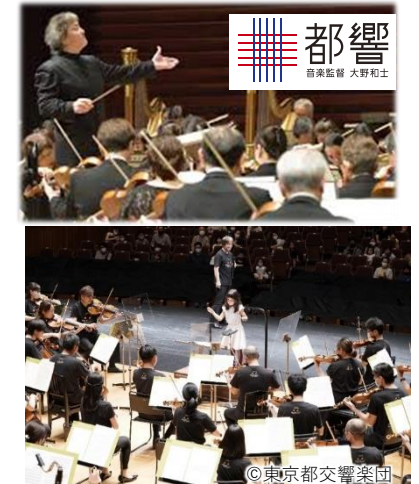
都立文化施設における展覧会や公演



- 都立文化施設では、多彩な展覧会や質の高い公演の実施のほか、他団体との連携による教育普及事業や人材育成なども展開。オンラインコンテンツの発信など、文化の魅力に気軽に触れ、親しめる取組も実施

東京都交響楽団による公演

- 東京都交響楽団では、定期演奏会など質の高い音楽活動や都民に身近な場所で幅広い活動を実施
- コロナ禍であっても、感染予防対策と音楽的成果を両立するための総合的な検証を行うなど、先駆的な取組みと意欲的な演奏活動を継続



Tokyo Tokyo FESTIVALの主な取組③

様々な文化活動をサポートする

(国内外の団体や企業等の文化活動を都が支援して、文化の広がりにつなげるプログラム)

Tokyo Tokyo FESTIVAL助成

- 東京2020大会に向けた**にぎわいを創出**すること、文化プログラムを**より多くの都民が見て楽しめる機会を設ける**とともに、**都民みずからも参加できる場を増やす**ことを目的に2016年度から実施
- フラッグプロジェクト支援、市民創造文化活動支援、海外発文化プロジェクト支援、未来提案型プロジェクト支援、地域文化活動支援を実施し、**民間企業や芸術団体等との連携を推進**

東京芸術文化創造発信助成 等

- **東京の芸術文化の魅力**を向上させ、世界に発信していく創造活動や**地域の文化の振興**、社会や都市の様々な**社会課題に取り組む芸術活動**を支援
- 東京芸術文化創造発信助成、芸術文化による社会支援助成、東京地域芸術文化助成を実施

※ 2016年度以降に実施したものをTTFとして実施

都内各地を文化で盛り上げる

(都内区市町村と都が協力して進める、都民が身近に文化を楽しむプログラム)

都内区市町村等との連携

- 「オール東京」で文化面から盛り上げるために、都内区市町村等が実施する文化事業・イベントのうち、都が主導する文化プログラムの考え方に準じた事業をTTFの連携事業として実施
- より多くの都民がTTFへ参加し、身近に文化を楽しめるような、各地域に根付いた伝統や文化を活かした事業を展開

Tokyo Tokyo FESTIVALプロモーション・ブランディング事業

TTFの各事業を発信するための取組として、公式ウェブサイトや広報東京都を基本としながらプロモーションを展開

感染症を踏まえた事業の展開

コロナ禍で人の移動が制限される難しい状況下でも、事業の魅力を損なうことなく実施できるよう知恵を絞って事業を再構築。**オンラインと実際の公演等の両方を活用**しながら安全・安心に事業を展開

Tokyo Tokyo FESTIVALの実績と検証①

(1) Tokyo Tokyo FESTIVALの概況

- Tokyo Tokyo FESTIVALは、リオ2016大会終了後から東京2020大会終了までの5年間で3901万4925人もの方々が参加し、イベントや活動の総数は16万2298件、参加アーティスト総数は3万4000人以上に上った。
- 2020年から2021年にかけては、新型コロナの影響に伴う緊急事態宣言等により人の移動が制限されたことから、祝祭感の創出や十分な大会気運の醸成は困難であった。
- オンラインの活用など工夫を凝らして実施したが、当初の計画どおりに実施できなかったプログラムもあり、十分な参加の機会を提供できない面もあった。また、多くの人に来場を促すような積極的な広報を控えたことから、プログラムを間近で、直に見たいという期待に十分応えられなかった。
- 復興五輪を掲げる東京2020大会の主旨に則って、東北の方々と連携し交流しながら事業を展開してきた。集大成となる2021年は、緊急事態宣言による人流抑制のため、直接交流することが叶わなかった。

参加者数

3901万人

アクティビティ件数

16万2千件

アーティスト総数

3万4千人以上

※ 対象は、①東京都、東京都歴史文化財団及び東京都交響楽団が主催する文化事業、② 東京都歴史文化財団が芸術文化団体等を対象に行う助成事業、③都内区市町村が主催する文化事業等でTokyo Tokyo FESTIVALの対象事業として申請があったもので、2016年9月19日から2021年9月5日までに実施された事業

※ 公演や展覧会等の来場者数、ワークショップの参加者数、ワークショップや会議等へのリモート参加者数のほか、動画サイトでライブ配信した動画の視聴者数、公開映像の視聴回数や動画再生回数も含む。

※ アクティビティ件数は、ロンドン2012大会のカウント方法に倣っており、展覧会は日数、ワークショップは実施回数、その他のフェスティバル形式の場合などはその中のプログラム（トーク・イベント等）をカウント。オンライン配信については、展覧会のカウント方式を準用して、映像配信日数をカウント

※ アーティスト総数は、ウェブ等の情報から確認できる内容をカウントしているが、実際は数値以上のアーティストの参加があったと推測されるため、「以上」としている。

Tokyo Tokyo FESTIVALの実績と検証②

(2) 東京の芸術文化への認識等

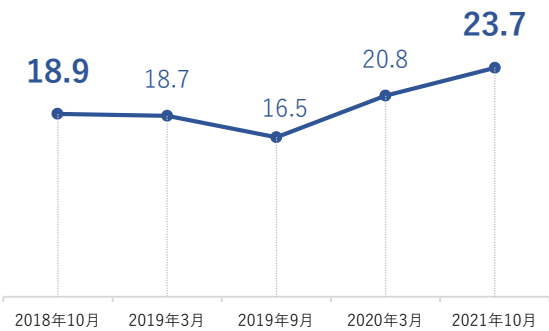
- 調査によると、Tokyo Tokyo FESTIVALの名称認知度は3年間で4.8%上昇、東京の文化環境に対する好意度も3年間で5.4%上昇しており、東京の芸術文化への認識が少しずつ深まるとともに、文化環境への好意度も着実に上昇しつつある。
- Tokyo Tokyo FESTIVALの公式Twitterのフォロワー数は2021年9月時点で10,400件、生活文化局文化振興部の公式Instagramのフォロワー数も2021年9月時点で128,061件に到達し、東京の芸術文化の魅力を国内外に発信し続けることで、興味や関心のある方が着実に増えている。
- 東京の芸術文化を体験できるプログラムについて、海外からの観光客が来日できず、一部の実施に止まったことから、予定していた多くの方に東京の芸術文化に触れてもらうことができなかった。
- 訪日観光客を迎えることができない中、オンラインやSNSを活用した海外広報を展開したが、海外からの大きな反響の手応えを感じるまでには至らなかった。

TTFの名称を知っているか

よく知っている・多少知っている・聞いたことがあるという回答の割合

単位：%

3年間で4.8%上昇

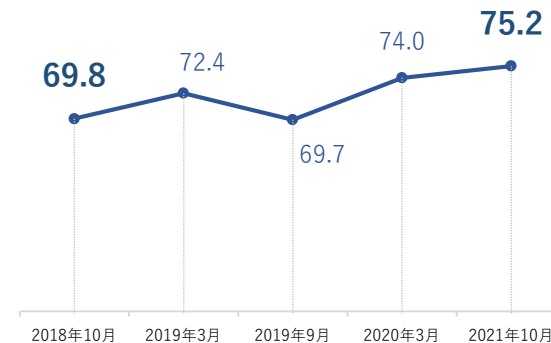


東京の文化環境を好ましいと思うか

そう思う・まあそう思うという回答の割合

単位：%

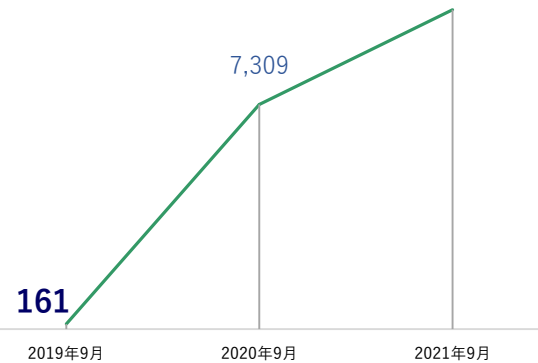
3年間で5.4%上昇



TTF 公式Twitterフォロワー数

単位：件数

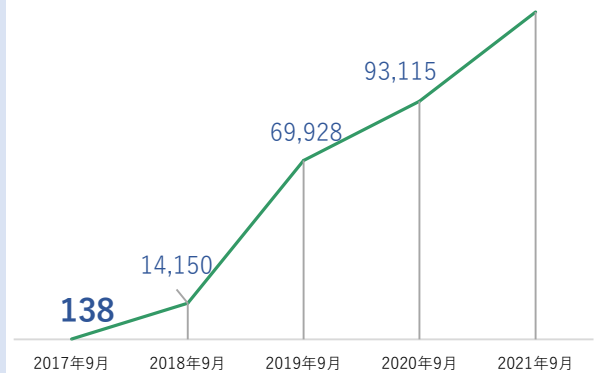
10,400



Tokyo Arts & Culture(文化振興部) 公式Instagramフォロワー数

単位：件数

128,061



※ 「Tokyo Tokyo FESTIVAL」におけるプロモーション・ブランディング効果測定調査 第4回事後調査報告書（令和3年11月4日）に基づき作成

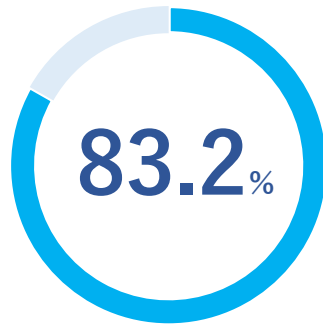
※ なお、当該調査は都内在住の15～69歳の都内1000人を対象にしたインターネット調査の回答による

Tokyo Tokyo FESTIVALの実績と検証③

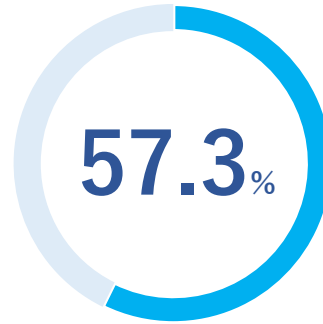
(3) Tokyo Tokyo FESTIVALにおけるアクセシビリティの状況

- 施設自体のバリアフリー及び手話通訳、点字ガイド、字幕ガイドなどの対応を行った事業の割合は83.2%、英語など外国語対応（外国人向けプログラムがあるものや字幕を付けて上演した演劇など）をした事業の割合は57.3%で、あらゆる人が参加できる環境の創出に向けて取り組んできた結果、バリアフリー率は8割を超えたが、外国語対応率は6割弱であった。
- まちなかでのプログラムなど無料のプログラムも多く実施し、人々が気軽に芸術文化に触れるきっかけづくりを行った。無料で参加できた事業の割合は76.4%に達した。
- 都立文化施設のバリアフリー化や、各事業におけるソフト面でのサポートの充実など準備を進めてきたが、一部、障害のある方にはアクセスが難しいイベント等もあった。また、来場を促すための呼びかけを控えたこともあり、関係団体や特別支援学校などを巻き込んだ拡がりのある効果に繋がらなかった。
- 外国人等にも東京の芸術文化を楽しんでもらうため、多言語対応やピクトグラムを取り入れた施設の案内表示等の対応を行ってきたが、訪日観光客が少なかったため、その効果検証ができなかった。

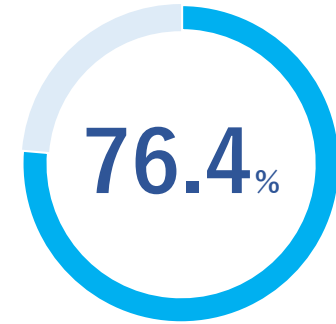
バリアフリー率



外国語対応率



無料率



※ バリアフリー率は、①東京都、東京都歴史文化財団及び東京都交響楽団が主催する文化事業から、②オンラインによる事業を除いたアクティビティ件数（138,772件）のうち、バリアフリー対応を行った事業の割合

※ 外国語対応率は、バリアフリーと同様の①から②を除いた件数のうち、外国語対応を行った事業の割合

※ 無料率は、全アクティビティ件数（162,298件）のうち、無料で実施した事業の割合

Tokyo Tokyo FESTIVALの実施総括

以上の実績と検証を踏まえ、Tokyo Tokyo FESTIVALの実施総括を次の5点に集約する。

実施総括

(1) 人々の記憶に残る斬新で独創的なプログラムを展開

国内外で活躍するアーティストらが、ダイナミックなスケールでオリジナル作品や挑戦的な作品を展開することで注目を集めるなど、開催都市として人々の記憶に残る文化プログラムを展開・発信

(2) 誰でも身近で気軽に芸術文化を享受できる機会の提供

まちなかでのプログラムの展開や誰もが参加できる事業、オンラインの活用など芸術文化への敷居を低くする取組により、障害の有無や年齢等にかかわらず、誰もが芸術文化に触れられる機会を提供

(3) 芸術文化に関わる人材や団体の成長に繋がる新たな挑戦の場を提供

最先端技術を活用した新たな表現への挑戦やジャンル・地域を超えたアーティスト同士の交流により、芸術文化に関わる人材や団体が成長する場を提供

(4) 東京都と他団体等との連携による相乗効果の創出

自治体や国内外の芸術文化団体等と連携して文化事業を展開することで、地元の伝統文化の再発見や国際的な芸術作品の創造など、相乗効果を創出

(5) 困難な状況下でも知恵を絞って芸術文化の魅力を発信

コロナ禍であっても、状況に適応した工夫を凝らし、事業の魅力を損なうことなく事業を実現するとともに、オンラインを活用した新たな方法により魅力を発信。芸術文化が人々の心の支えや喜びにつながるものであることを再認識

また、検証の結果、不十分だった点を踏まえ、引き続き以下の視点をもって取り組んでいくことが重要

1. 選択肢を増やす

実際に開催場所に赴いて参加・鑑賞する機会の拡充のみならず、オンラインの良さも活用し、芸術文化に触れることのできる選択肢を増やすことで、芸術文化に親しんでもらう機会を幅広く提供

2. 様々な方法で継続的な広報を展開する

オンラインやSNS、海外発信に強い関係機関・団体等との連携など、様々な方法で、事後広報も含めて継続的に東京の芸術文化の魅力を発信

3. アクセシビリティを強化する

障害のある人や外国人等が文化施設を快適に利用できる取組を継続するとともに、技術の活用も含め様々なサポートの充実や福祉施設など関係団体への積極的な呼びかけ等も行い、より多くの、多様な人々が芸術文化に参加できる環境を創出

Tokyo Tokyo FESTIVALのレガシー

実施総括から、文化プログラムのレガシーを以下5点に集約する。

レガシー

- 多くの人々が鑑賞・参加できる事業をまちなかを含め都内各地で多数実施し、**誰もが芸術文化に気軽に触れられるようになってきた**。また、オンラインやSNSの活用などにより**芸術文化の楽しみ方も増えた**ことから、**より多くの人々が芸術文化に親しむことができる環境**が整い始めた。
- 芸術文化の多様性や包摂性を活かした事業や施設のバリアフリー化に積極的に取り組み、**多様な価値や一人ひとりの個性を認め合える共生社会に向けて着実に歩を進めた**。
- 新しい技術・表現方法へ挑戦する機会となり、**アーティストの創作意欲・経験値の向上**に繋がっている。
- **国内はもとより、海外も含めた文化団体等との強固なネットワーク**が構築されつつある。
- 芸術文化は人々の心を豊かにする力があり、コロナ禍でも文化の灯を絶やさず事業を実施したことで、**芸術文化に対する人々の理解が一層促進**された。

Tokyo Tokyo FESTIVALの構成

ここからは、以下のカテゴリーごとに主な事業の振り返りを行う。

芸術文化の可能性にチャレンジする（「文化の祭典」ならではのTokyo Tokyo FESTIVALを象徴するプログラム）

○Tokyo Tokyo FESTIVALスペシャル13 ○TURN ○東京キャラバン ○オペラ夏の祭典 など

東京がもつ文化の力を活かす（都立の美術館・博物館・ホールで行われる展覧会や公演、まちを舞台としたアートイベント）

○都立文化施設の取組 ○東京都交響楽団の取組 ○六本木アートナイト など

様々な文化活動をサポートする（国内外の団体や企業等の文化活動を都が支援して、文化の広がりにつなげるプログラム）

○Tokyo Tokyo FESTIVAL助成 ○東京芸術文化創造発信助成等

都内各地を文化で盛り上げる（都内区市町村と都が協力して進める、都民が身近に文化を楽しむプログラム）

○都内区市町村等との連携

Tokyo Tokyo FESTIVAL プロモーション・ブランディング事業

芸術文化の可能性にチャレンジする

Tokyo Tokyo FESTIVALスペシャル13

- 都の文化プログラムの中核を担う事業の企画アイデアを公募したこと自体が挑戦であった上、これまでにない事業費を提示したことで、都が芸術文化に力を入れており、あらゆる可能性を受け入れたいという前向きなメッセージを伝えることになり、結果、国内外から2,436件という多数の応募に繋がったこと自体、大きな意義を持つ。
- バラエティに富む13企画が選定されたが、唯一無二の機会を最大限活用し、普段では考えられない場所での事業実施を予定したものも多く、困難、かつ、膨大な許認可等手続きが発生したが、それらを地道に乗り越え、成功に導いた。
- コロナ禍により当初の予定どおりに実施できなかったプログラムもあったが、工夫を凝らしながら事業を再構築し、13企画すべてを実現。そのような中でも東京2020大会が開催される年だからこそできるダイナミックで大胆な作品を展開することで**東京の文化の魅力を大いに発信し、マスメディアをはじめ多くの注目と話題を集めた。**
- これまでにない規模や発想による企画のほか、**コロナの影響により新たな表現・発信方法に挑戦**したことで、アーティストにとってもステップアップにつながる機会となった。
- 国内外で活躍する様々なジャンルのアーティストによる一流の作品やパフォーマンスを街なかで多く展開し、都民が身近に**芸術文化に触れるきっかけ作りに寄与した。**

Tokyo Tokyo FESTIVAL SPECIAL



観覧者数 505,468人

東京大壁画



東京駅の正面に並び立つ丸ビル・新丸ビルの壁面を巨大なキャンバスに見立て、インパクトのある巨大壁画アートを展開するプロジェクト

【アーティスト】
横尾 忠則、横尾 美美

パビリオン・トウキョウ 2021



観覧者数 308,203人

世界で活躍し注目を集める日本人建築家・アーティストによる独自のパビリオンを都内各所に設置し、未来の建築やアートとして紹介

【参加クリエイター】
会田誠、石上純也、草間彌生、妹島和世、
平田晃久、藤本壮介、藤森照信、藤原徹平
※五十音順 (特別参加) 真鍋大度

芸術文化の可能性にチャレンジする

Tokyo Tokyo FESTIVALスペシャル13

まさゆめ



世界中から募集した約1,400人の候補から選ばれた、たった一人の「顔」の立体物を制作し、東京の空に浮かべるアートプロジェクト

【アーティスト】
現代アートチーム目 [mé]

(まさゆめ) 目 [mé], 2019-21 撮影: 金田幸二

TOKYO SENTO Festival 2020



都内4か所の銭湯で漫画家ヤマザキマリをはじめとした様々なジャンルのアーティストが東京をイメージして描き下ろしたペンキ絵や、約500ヶ所の銭湯で暖簾アート・スタンプリナーなどを展開

【アーティスト】
青木尊、大塚いちお、大原大次郎、星清美、ヤマザキマリ※五十音順

観覧者数 58,916人

漫画「もしも東京」展



現在の日本を代表する20名の漫画家が「もしもの東京」をテーマに、それぞれの「東京」を漫画作品として描き下ろす展覧会

『Tokyo Sound』より©石塚真一

観覧者数 20,704人

ザ・コンスタント・ガーデナーズ



4つのロボットアームが、「庭師(ガーデナー)」として、巨大な砂利のキャンバスに、ダイナミックなアスリートのパフォーマンスを表現しながら、禅庭園の砂紋を描き出す、英国人アーティストによるプロジェクト

撮影: Jimmy Cohrsen Courtesy of Jason Bruges Studio

観覧者数 47,224人

隅田川怒涛



隅田川周辺を舞台として、「春」と「夏」の2期にわたって展開する音楽・アートプロジェクト。当初は参加型の開催を予定していたが、コロナの影響により、オンラインを中心としたプログラムに再構成し世界中の人々に発信

観覧者数 40,284人

芸術文化の可能性にチャレンジする

Tokyo Tokyo FESTIVALスペシャル13

DANCE TRUCK TOKYO



Photo by Hideo Mori

観覧者数 9,074人

輸送トラックの荷台を舞台にコンテンツポラリーダンスや音楽等のパフォーマンスを都内各地で展開する移動式の公演。コロナ禍で、ライブ公演の機会が減ったものの、高輪ゲートウェイ駅前特設会場、築地本願寺、八丈島で無観客公演を実施し、オンラインで配信

TOKYO REAL UNDERGROUND



Photo by Takuya Matsumi

観覧者数 15,930人

1960年代の日本に生まれ、世界に広まった「舞踏」をテーマとした複合的なダンスフェスティバルを、オンライン配信や新感覚の街歩き型AR作品などの密を避ける工夫を取り入れて展開

放課後ダイバーシティ・ダンス



©植田洋一

観覧者数 1,678人

子供たちが第一線で活躍するプロの舞踊家と一緒に、各地域ならではの文化にかかわるダンスに触れながら、ダイバーシティを体験し、ダンス作品を創作。コロナ禍によりワークショップの一部をオンラインで行ったり、集大成公演をダイジェスト映像の制作に切り替えたりするなどしてプロジェクトを完遂

世界無形文化遺産フォーラム



©公益社団法人全日本郷土芸能協会

観覧者数 246人

当初は、世界各地の民族芸能を招聘するフェスティバルを予定していたが、コロナ禍の影響によりフォーラム形式に変更。五大洲6か国(インドネシア、エストニアなど)や、東北3県(岩手、宮城、福島)の伝統芸能を現地で撮影した映像とともに著名なゲストによるトークセッションも交えて紹介

光の速さ -The Speed of Light -



©松本和幸

観覧者数 1,695人

公募で集まった東京在住65歳以上の13名の出演者と、アルゼンチン出身のマルコ・カナレが創り上げる演劇で、観客は出演者と街を巡りながら観劇。コロナ禍では、オンライン稽古も取り入れるなど、感染症対策との両立を図る様々な工夫を凝らしながら実施

Light and Sound Installation "Coded Field"



Light and Sound Installation "Coded Field" (2019) ©写真提供: ライツメディアクス

観覧者数 1,514人

歴史と伝統のある増上寺周辺を舞台に、最新のメディアテクノロジーと通信技術を組み合わせ、一夜限りの光と音のアート空間を創出

芸術文化の可能性にチャレンジする

TURN

- 障害の有無、世代、性、国籍、住環境などの背景や習慣の違いを超えた多様な人々の出会いによる相互作用を、表現として生み出すアートプロジェクトであり、都のリーディングプロジェクトとして、日比野克彦氏監修のもと、2015年から開始
- アーティストが福祉施設や社会的支援を必要とする人のコミュニティへ赴き、出会いと共働活動を重ねる「TURN 交流プログラム」、TURNの活動が日常的に実践される場を地域につくり出す「TURN LAND」を基本に据え、関係者やゲストを招きTURNについて考察する「TURN ミーティング」、交流プログラム等から生まれた作品や活動を紹介する「TURNフェス」の開催によって、広くその意義を発信
- コロナの影響で2020年のTURNフェスは中止したものの、その後はコロナ禍にあってもオンライン等による遠隔での交流や映像の配信等に挑戦し、想像力を源とするアートの力で「人と違う」ことに価値を見出して社会へ発信することで、一人ひとりが異なる“その人らしさ”を尊重できる社会の創造を目指す取組を継続的に行った。



TURNフェス6(2021年) 撮影：富田了平
観覧者数 52,566名 ※リオ2016大会終了後の観覧者数

東京キャラバン

- 「人と人が交わるところに新しい文化が生まれる」というコンセプトを掲げ、リーディングプロジェクトとして、野田秀樹氏監修のもと、2015年から開始。東京、リオデジャネイロ、東北、京都、八王子、熊本、豊田、高知、秋田、いわき、埼玉、富山、岡山、北海道の国内外16箇所を巡り、その土地の歴史や文化を学びながら創作に取り入れ、新しい表現を生み出した。
- コロナの影響により、集大成となる公演は中止となったが、芸術文化界の第一線で活躍する多くのアーティストや新たな可能性を持った若き表現者たちが参加し、圧倒的なパフォーマンスでこれまでに63,500人以上の観覧者を魅了した。



東京キャラバン～プロローグ～ (2015年) 撮影：井上嘉和
観覧者数42,479名 ※リオ2016大会終了後の観覧者数

芸術文化の可能性にチャレンジする

オペラ夏の祭典

- 東京2020大会を契機に、東京文化会館と新国立劇場による初の共同制作の下、世界で活躍するアーティストが集結し、共にオペラを創り上げる一大プロジェクトとして、日本を代表する**各地の劇場と連携**して展開
- 海外の劇場及び音楽祭とも共同で制作した祝祭感溢れる大作『ニュルンベルクのマイスタージンガー』について、東京文化会館公演は中止となったものの、2019年には『トゥーランドット』を上演し、バルセロナ交響楽団の演奏等により祭典を大いに盛り上げるとともに、東京駅前のKITTE等における無料イベントの開催や、鉄道事業者や地域と連携した広報展開を通して、**多くの方がオペラの魅力に触れる機会を創出**



観覧者数 34,845名

アール・ブリュット

- ダイバーシティの理解促進や包容力のある共生社会の実現に寄与するため、2020年度からアール・ブリュット作品の展示等を通じて、**人々が多様な創造性に触れ、新たな価値の発見につながる機会を創出**
- 2020年2月にはアール・ブリュット等の拠点として東京都渋谷公園通りギャラリーを新たにオープン。コロナの影響による長期の休館を経ながらも2回の企画展を実施したほか、2020年度は武蔵野市、2021年度は中野区、福生市と連携して巡回展を実施し、国内外の作家を紹介しながらその魅力を発信



©東京都渋谷公園通りギャラリー 撮影：中村晃

芸術文化の可能性にチャレンジする

都民パフォーマーズコーナー（トパコ）



- 民間企業等と連携し、日常的に文化活動を行う都民（アマチュア）の方々の発表の場を創出することで、より多くの方が主体的に文化プログラムへ参画できる機会を提供し、東京2020大会への気運醸成を目指した。
- コロナの影響により、2021年の3月に実施した最終回は無観客開催となったが、後日映像の配信を行った。これを含め、これまで8回にわたり民間企業等が所有する自社ビル等多くの方が集まる場所を舞台に多彩なジャンルの都民パフォーマーが日頃の練習成果を披露することができ、都民自身が実際に文化プログラムに参加してもらうという当初の目的を果たした。

観覧者数 32,456名

TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL[サラダ音楽祭]



- 東京都と東京都交響楽団が東京芸術劇場及び豊島区と連携し、池袋エリアをメイン会場に、誰もが音楽の楽しさを体感・表現できる音楽祭として、**赤ちゃんから大人まで楽しめるフレッシュで多彩なプログラムを展開**
- 2021年度はメインプログラムとして、0歳から入場できるオーケストラや、豪華出演者によるメインコンサートを開催し、身体表現を通してクラシック音楽の新たな魅力を創造。また、東京芸術劇場の企画制作で、ヨーロッパ各地で上演されている子どものためのオペラ「ゴールド！」を日本初演したほか、バーチャルオーケストラなどの**最新テクノロジーを用いたプログラムやワークショップなど、感染対策の工夫も凝らした上で、来場者が参加・体験できる多彩な企画を実施した。**

観覧者数 49,922名

大会時における伝統文化体験



- 選手村や東京都メディアセンター(有楽町)で、選手や大会関係者、海外記者等を対象とした日本の伝統文化・芸能を紹介、体感できる機会を提供
- 生け花や茶道具、着物、人形、鎧兜等を海外の方にも分かりやすいよう説明を付して展示し、和の空間を創出したほか、茶道や華道等の伝統文化体験をイメージする動画を放映するとともに、風呂敷の体験コーナーの設置や能楽、箏曲のミニ鑑賞会により、コロナ禍にもかかわらず、海外の方に**生の東京の伝統文化・芸能の魅力を伝え、楽しんでもらう貴重な機会となった。**

【参考】来場者数11,934名（延べ数）※選手村ビレッジプラザ「日本文化コーナー」

【参考】大会期間中に実施したその他の伝統文化関連事業について
東京都では、生活文化局以外でもライブサイト等で文化に関する事業を実施する予定だったが、コロナの影響により中止になったほか、無観客公演の収録・配信などにより実施した。

東京がもつ文化の力を活かす

都立文化施設の取組

- 東京がもつ文化の力を活かすため、都立の博物館や美術館では、各施設の収蔵品や施設の特性を活かした**多彩な展覧会**を実施。ホール・劇場においては、クオリティの高い公演の実施のほか、他団体との連携による**教育普及事業や人材育成**なども展開し、**東京の芸術文化の基盤**としての役割を果たしてきた。
- 博物館・美術館においては、当初、東京2020大会時期に合わせ、訪日外国人も意識した企画展などを準備
- しかし、大会の延期とコロナの影響により実施を断念したり、会期の変更を余儀なくされるものもあった。2021年においても、大会は無観客開催となり、また、様々な制約下ではあったが、各博物館・美術館では、江戸に暮らした武家や商人・町人の儀礼、祭礼、婚姻など活発にして明るい江戸の姿を明らかにした「大江戸の華」（東京都江戸東京博物館）や時代のエネルギーをとらえた写真で雑誌をはじめとする出版文化の隆盛を代表する篠山紀信の個展（東京都写真美術館）、日本を代表する現代美術家の一人、横尾忠則の大規模な個展（東京都現代美術館）、自然と通底する抽象の世界を、生涯を掛けて追い求めた20世紀を代表する彫刻家イサム・ノグチの展覧会（東京都美術館）、国内外の機関や個人所蔵の逸品を、アール・デコ様式の旧朝香宮邸ならではの空間とのコラボレーションによって展示した「生命の庭—8人の現代作家が見つけた小宇宙の扉」（東京都庭園美術館）など、**話題となる展覧会を開催**
- さらに、東京芸術劇場や東京文化会館等においては、大会期間中にミニコンサートや伝統芸能パフォーマンスなども実施し、文化の祭典でもある大会に華を添えた。
- また、感染拡大防止の観点から、**自宅や海外からでも芸術文化を楽しめるよう**、展覧会と連動した様々なオンラインコンテンツを発信するなど、**芸術文化都市東京の多彩な魅力に気軽に触れ、親しめる取組**も実施

東京がもつ文化の力を活かす

都立文化施設の取組

大江戸の華 – 武家の儀礼と商家の祭 –

東京都江戸東京博物館



黒塗梅唐草丸に三階菱紋散時絵女乗物 江戸末期 江戸東京博物館蔵

相撲の錦絵と江戸文化

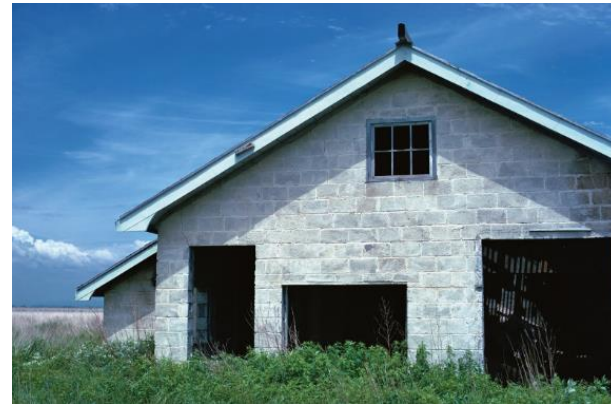
東京都江戸東京博物館



「小野川 谷風 引分の図」勝川春英／画 1791年（寛永3）頃 江戸東京博物館蔵

新・晴れた日 篠山紀信

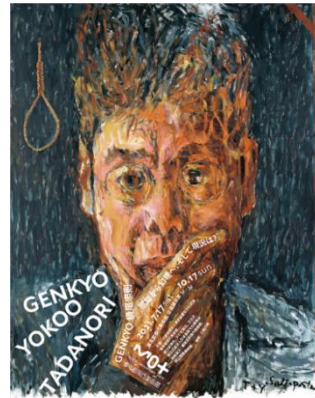
東京都写真美術館



〈晴れた日〉1974年 東京都写真美術館蔵

GENKYO 横尾忠則 原郷から幻境へ、そして現況は？

東京都現代美術館



生命の庭—8人の現代作家が見つけた小宇宙の扉

東京都庭園美術館



イサム・ノグチ 発見の道

東京都美術館



東京がもつ文化の力を活かす

東京都交響楽団の取組

- 東京1964オリンピックのレガシーである東京都交響楽団（都響）は、日本を代表するオーケストラの一つとして、音楽監督・大野和士氏のもと、東京文化会館、東京芸術劇場、サントリーホールを中心に、定期演奏会等を通じて質の高い音楽活動を展開するとともに、都民のオーケストラとして都民に身近な場所で幅広く活動を実施
- 2020年にはコロナの影響により公演を一部中止せざるを得なかったものの、感染予防対策と音楽的成果を両立するための総合的な検証を目的とした「COVID-19（新型コロナウイルス）影響下における演奏会再開に備えた試演」を行い、その成果を「演奏会再開への行程表と指針」として発表するなど、コロナ禍における先駆的な取組みと意欲的な演奏活動を継続



東京がもつ文化の力を活かす

六本木アートナイト



©六本木アートナイト実行委員会

観覧者数3,214,000人

六本木のまちを舞台に、多様な作品を点在させ、非日常的な体験を創出。六本木の文化的なイメージを向上させ、東京という大都市におけるまちづくりの先駆的なモデルの創出を目的とする「アート饗宴」として開催

東京芸術祭



野外劇『NIPPON・CHA!CHA!CHA!』撮影：住田磨音

観覧者数571,269人 ※特別公演等を含む

東京の多彩で奥深い芸術文化を通して世界とつながることを目指した都市型総合芸術祭。個性豊かな演目を揃え、演出家宮城聰総合ディレクターのもと、7人の部門ディレクターが、豊島区池袋エリアを中心に舞台芸術フェスティバルを展開

Shibuya StreetDance Week



観覧者数134,887人

ストリートダンスの確立と、活気に溢れた街をつくることを目的とする国内最大のストリートダンスの祭典。様々な地域団体、企業等と連携し、ダンサーの聖地である渋谷から、ストリートダンスの魅力や本質的な価値を国内外に発信

パフォーマンスキッズ・トーキョー



観覧者数4,327人

子供たちの創造性や自主性を育み、コミュニケーション能力を高めるため、ダンスや演劇、音楽などのプロのアーティストを、学校やホール等に派遣。ワークショップを行い、子供たちが主役のオリジナルの舞台作品を作り上げ、発表公演を実施

伝承のたまてばこ～多摩伝統文化フェスティバル～



観覧者数120,069人

八王子市をはじめとする多摩地域の文化資源を活用し、まちなかでの演奏会や野外ステージを舞台にした本格的な公演など、多彩な伝統文化・芸能の魅力を発信するフェスティバルを開催

東京大茶会



東京大茶会2019

観覧者数68,280人

都内の野外博物館と庭園で、様々な流派が一堂に会する大規模な茶会を開催し、茶道に馴染みのない方や外国の方でも気軽に楽しみながら、お茶の文化とそれを育んできた江戸・東京の文化を国内外に発信。

様々な文化活動をサポートする

Tokyo Tokyo FESTIVAL助成

- 東京2020大会に向けた**にぎわいを創出**すること、文化プログラムを**より多くの都民が見て楽しめる機会を設ける**とともに、**都民みずからも参加していただける場を増やしていく**ことを目的に2016年度から実施
- 民間の大規模な文化事業を対象としたフラッグプロジェクト支援、先端技術を活用した新しい表現の創造を対象とした未来提案型プロジェクト支援、都民の日常的な文化活動を対象とした市民創造文化活動支援、海外からのアーティスト等の新たな創造活動につながる活動を対象とした海外発文化プロジェクト支援など幅広い活動を対象とし、2016年度からこれまで777件の申請があり、そのうち252件を採択して**民間企業や芸術団体との連携を推進**。また、区市区町村等が地域の文化団体と実施する事業を対象に地域文化活動支援を実施し、26件を採択した。
- コロナの影響により、2020年度及び2021年度は多くの事業が中止や延期になったものの、民間の発想豊かなプロジェクトを支援することで**東京に集積する芸術文化の力を最大限に活用**することに繋がった。

【参考】Tokyo Tokyo FESTIVAL助成 カテゴリ別採択数

	TTFフラッグプロジェクト	市民創造文化活動支援	海外発文化プロジェクト	未来提案型プロジェクト	地域文化活動支援
採択数	86 件	61 件	68 件	37 件	26 件

東京芸術文化創造発信助成 等

- 東京の芸術文化の魅力を上向きさせ、世界に発信していく創造活動や地域の文化の振興、社会や都市の様々な社会課題に取り組む芸術活動を支援
- 2012年からは東京の芸術文化の創造と発信に資する優れた公演・展示等の創作活動や国際的な芸術交流活動等を支援する「**東京芸術文化創造発信助成**」を開始。特に、**若手・中堅を重点的に支援することで、継続的な東京の都市の魅力向上に寄与**
- 2015年からは、社会課題の解決に取り組む活動を支援する「**芸術文化による社会支援助成**」を開始。特に、コロナ禍を経て芸術文化団体の意識が高まり、社会で困難を抱える人々の課題と向き合う企画を多く支援するなど、**あらゆる人に開かれた芸術を生み出す一助を担っている**。
- 同じく、2015年から地域と結びついた文化資源を活用した活動を支援する「**東京地域芸術文化助成**」を開始。地域の人々が継続的に関わり、文化的な価値を醸成している事業や芸術文化ならではの視点で地域の魅力や特色の再発見を目指す事業などを支援し、**各地域の魅力を向上させると共に地域振興等に寄与**

※ 2016年度以降に実施したものをTTFとして実施

都内各地を文化で盛り上げる

都内区市町村等との連携

- 「オール東京」で文化面から盛り上げるために、都内区市町村等が実施する文化事業・イベントのうち、都が主導する文化プログラムの考え方に準じた事業をTTFの連携事業として実施
- より多くの都民がTTFへ参加し、身近に文化を楽しめるような、各地域に根付いた伝統や文化を活かした事業を展開



「世田谷アートタウン 三茶de大道芸」世田谷区（2019年）
©NANIROSSI 加藤春日



「市制施行65周年記念事業第55回府中市民芸術文化祭」
府中市（2019年）



「北斎生誕260年記念シンポジウム 世界の北極 すみだにあり」
墨田区（2020年）



ファーレ立川アートミュージアム・デー2020秋まちなか劇「ロスト・イン・ファーレ〜宇宙家族、立川で迷子になる〜」
立川市（2020年）

Tokyo Tokyo FESTIVAL プロモーション・ブランディング事業

- TTFの意義をより分かりやすくするためのコンセプト及びコンセプトコピーを作成し、公式ウェブサイトや広報東京都を基本としながらプロモーションを展開
- 当初は、プロモーションイベントなどにより積極的な事業広報を行い、来場喚起を目指していたが、コロナの影響により、オンラインに軸足を置いた広報及び事後広報をより重視する方向へ転換
- 屋外で展示するプログラムについて、実際に観覧しているような臨場感のある高画質の主観映像やメイキング映像を作成・公開し、自宅等にしながらプログラムを楽しめるよう、工夫を凝らしてプログラムの魅力を発信
- また、世界58カ国で展開し、グローバルなブランド認知を有するシティガイド「Time Out Tokyo」ウェブ版において、ライターが取材した記事広告を掲載したり、FPCJ（フォーリン・プレス・センター・ジャパン）と連携し、オンラインによるブリーフィングや在京海外特派員向けのプレスツアーを実施するなど、コロナ禍でも可能な限り海外広報を展開。**国外へ東京の文化の魅力を届け、アフターコロナの東京来訪時の期待へつなげた。**



Tokyo Tokyo FESTIVAL プロモーションイベント 会場の様子 (KITTEアトリウム 2019年3月30日)

感染症を踏まえた事業の展開（感染症の影響、1年間の事業実施延期に伴う新たな取組）

また、全ての事業に共通する新型コロナウイルス感染症への対応についても記載する。

困難な状況下でも知恵を絞って芸術文化の魅力を発信（全ての事業）

- コロナ禍で人の移動が制限され、集まっての鑑賞や人と人との接触が難しい状況下でも、事業の魅力を損なうことなく実施できるよう知恵を絞って事業を再構築
- また、オンラインを活用した映像の配信やワークショップの実施など**新たな芸術文化の楽しみ方を提案**するとともに、稽古や観覧方法の見直し、事前予約制の導入など感染拡大防止を徹底することで、**オンラインと実際の公演等の両方を活用**しながら安全・安心に事業を展開
- オンラインを活用した発信方法やテクノロジーを用いた表現は、アーティストにとっても今後の活動の新たな可能性にも繋がるものとなった。

【特記事項】

「アートにエールを！」東京プロジェクト（個人型・ステージ型）

- コロナ禍においても文化の灯を絶やさないため、東京都が全国に先駆けて始めたアーティスト支援事業として、活動を自粛せざるを得ないプロのアーティストやスタッフ等が制作した作品をウェブサイトで発信することで、**アーティスト等の活動を支援するとともに、多くの都民が場所や時間を問わずアートに触れることのできる機会を提供**
- 個人型は27,249件の応募、ステージ型はこれまで3回の募集で2,269件の応募があり、コロナ禍で創作活動の制約を受ける中でも、新たな活動の場を提供することで、アーティストの自由で多様な創作活動を支援した。

感染症を踏まえた事業の展開（感染症の影響、1年間の事業実施延期に伴う新たな取組）

コロナ禍でもTokyo Tokyo FESTIVALを実施していくメッセージを発信

コロナ禍にあっても芸術文化の灯を絶やさず、芸術文化の「新しい」可能性を発見し、チャレンジする姿を発信するため、Tokyo Tokyo FESTIVALを実施していくというメッセージを検討し、公式ウェブサイトが発信

Tokyo Tokyo FESTIVALから未来へ

世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症は、社会に大きな打撃を与え、芸術文化もその影響を受けています。

2020年に向けて進めてきたTokyo Tokyo FESTIVALも、スペシャル13をはじめ多くのプログラムが延期や中止を余儀なくされました。しかし、アーティストをはじめ文化を取り巻く人々は、こうした状況と向き合い、芸術活動の再開、継続に向け、果敢なチャレンジを続けています。

新しい行動様式が浸透し、芸術文化の意義や役割が問い直される中、これまでにない表現や作品も生まれようとしています。芸術文化には、人々をつなぎ、閉塞感に満ちた社会を回復させる力、活力をもたらす力があるはずです。

東京はアートの力を信じ、Tokyo Tokyo FESTIVALを通じて、未来を描いていきます。

2021年5月

Tokyo Tokyo FESTIVALの経緯①

1. オリンピック・パラリンピックと文化

オリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典だけでなく、文化の祭典でもある。国際オリンピック委員会（以下「IOC」という。）が定める「オリンピック憲章」の根本原則には、「オリंपィズムはスポーツを文化、教育と融合させ」と明記され、これまでも、開催都市では独自の文化プログラムを展開してきた。

2. 2016大会招致と東京都の文化プログラムのはじまり

2006年8月、東京都は2016年の第31回オリンピック・パラリンピック競技大会の国内立候補都市に決定した。

2007年3月の第1回東京芸術文化評議会では、都知事から世界文化都市・東京を実現するための文化戦略などとともに文化プログラムについて諮問された。これを受け、評議会の下「文化事業検討部会」での活発な議論を踏まえ、同年8月の第2回評議会では、東京芸術祭や六本木アートナイト、パフォーマンススキッズ・トーキョーなどが提案された。

また、2008年には、大規模なフェスティバルや次世代の担い手となる子供たちへ芸術文化の活動を体験する機会の提供、市民に支えられた地域文化創造拠点づくりを通じて、東京の魅力を世界に向けてアピールすることを目指し、東京都歴史文化財団内に「東京文化発信プロジェクト室」を設置した。

なお、2016大会の開催都市はブラジルのリオデジャネイロに決定した。

3. 2020大会の招致から東京大会の開催決定まで

2012年5月、東京都が、IOC理事会により2020大会の立候補都市に決定した。同年11月、東京芸術文化評議会の提言も踏まえ、世界的な文化都市東京の実現を目指し、民間の優れた芸術文化活動を支援することなどを目的として、東京都歴史文化財団内にアーツカウンシル東京を設置した。

2013年1月に招致委員会がIOCに提出した立候補ファイルには、2016年招致をきっかけとして開始した東京文化発信プロジェクトをさらに発展させること、若手芸術家を支援する取組をさらに確かなものにする、文化交流の促進、ロンドン2012大会の「アンリミテッド」プロジェクトの成功の継承などがコンセプトとして明記された。

同年9月、都が2020大会の開催都市に決定した。

4. 東京2020大会の開催決定からリオ2016大会終了まで

2015年3月、都は「東京文化ビジョン」を策定するとともに、東京都芸術文化振興基金(100億円)を設置。同ビジョンには、都が大会招致を機に文化事業を大幅に強化し、史上最高の文化プログラムを実現し、2020大会のレガシーとして東京を世界のどこにもない文化都市にするための戦略を示した。

同年4月、東京文化発信プロジェクト室とアーツカウンシル東京を統合し、2020大会へ向けて体制強化を図るとともに、事業を再編した。

また、都の文化プログラムを先導するリーディングプロジェクト「TURN」と「東京キャラバン」もこの年に始動。この2事業は、リオデジャネイロ2016大会期間中に現地で開催するなど、東京2020大会へ向け気運を高めた。

2016年9月18日にリオ2016大会が閉会し、東京2020大会に向けた文化プログラムが本格始動となることを受け、同年10月に、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と共催で「幕開き 日本橋～東京2020文化オリンピアドキックオフ～」を実施した。

また、民間の大規模な文化事業や先端技術を活用した未来提案型プロジェクトなど、幅広い活動を対象に支援するため、東京文化プログラム助成（後の「Tokyo Tokyo FESTIVAL助成」）もこの年に開始した。

Tokyo Tokyo FESTIVALの経緯②

5. リオ2016大会終了から東京2020大会の終了まで

その後、都は、東京芸術文化評議会及び文化プログラム検討部会で検討してきた「都が主導する文化プログラムの考え方」に基づき、精力的に取り組んできた。

特に、2017年11月からは、都の文化プログラムを「Tokyo Tokyo FESTIVAL」と銘打ち、ブランディングと認知強化、気運醸成を目的に、プロモーションイベントなども含め、戦略的にプロモーションも展開した。

あわせて、都はTTFの中核を彩る事業を創出するため、「Tokyo Tokyo FESTIVAL 企画公募」の実施。文化プログラムのアイデアを民間等から募集するという画期的な試みで、国内外から2,436件の応募があり、外部有識者等の委員による審査会を経て、2018年8月に13件が選定された。また、2019年2月、TTFのコンセプトコピーとステートメントを発表した。

2019年8月、企画公募の13企画を総称する名称「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13」を発表し、9月には最初のプログラムとなる「DANCE TRUCK TOKYO」第1回を新宿中央公園で実施。11月には港区浄土宗大本山増上寺周辺で「Light and Sound Installation “Coded Field”」を開催し、本格的にスペシャル13が始動した。

2020年に入り、新型コロナウイルス感染症が世界中で拡大し、3月には、東京2020大会の1年延期が決定され、4月には、7都府県に緊急事態宣言が発出。こうした状況を踏まえ、TTFのプログラムもほとんどが延期となった。

各プログラムは、実施時期や内容、運営方法の見直しを進め、感染拡大防止と業界活動を両立するためのガイドライン等に沿って実施することとなった。また、プロモーションについても、大々的なものは控えるとともに、オンライン中心に転換することとした。

2021年4月以降、スペシャル13を中心に各プログラムが展開されたが、緊急事態宣言の発出や人流抑制などの社会情勢を受け、プロモーションも含めて慎重に行わざるを得なかった。東京2020大会も都内でのライブサイトやパブリックビューイングが中止となり、一都三県の会場も無観客での開催になるなど厳しい状況下ではあったが、TTFは感染対策を徹底して継続した。

TTFの各プログラムは、特に2020年以降、企画や運営方法の変更に対応し、かつ、感染対策に最大限配慮するなど、様々な困難を乗り越えながらの実施となった。一部、やむなく開催を断念したプログラムもあったが、ほとんどのプログラムをやり切ることができ、2021年9月5日をもって終了した。

Tokyo Tokyo FESTIVALの経緯③

- 2006**
(平成18)

知事の附属機関として東京芸術文化評議会を設置(12月)
- 2008**
(平成20)

東京文化発信プロジェクト室を東京都歴史文化財団内に設置
東京文化発信プロジェクト事業を開始（東京都と東京都歴史文化財団の共催事業）
（「六本木アートナイト」「東京大茶会」「フェスティバル/トーキョー」「キッズ伝統芸能体験」「恵比寿映像祭」開始）
- 2011**
(平成23)

東日本大震災発生(3月)
- 2012**
(平成24)

ロンドン2012大会開催(7月及び8月)
アーツカウンシル東京が公益財団法人東京都歴史文化財団内に設置（4月～準備機構、11月に正式発足）
- 2013**
(平成25)

東京2020大会の開催決定(9月)
- 2015**
(平成27)

東京文化ビジョン策定、東京都芸術文化振興基金を設置
東京文化発信プロジェクト室をアーツカウンシル東京と統合(4月)
（リーディングプロジェクト（「TURN」、「東京キャラバン」）開始）
- 2016**
(平成28)

「東京文化プログラム助成（→Tokyo Tokyo FESTIVAL助成）」開始
リオデジャネイロ2016大会開催(8月)
（大会期間中にリオにて「TURN」、「東京キャラバン」、「リオ伝統芸能公演 TOHOKU & TOKYO in RIO」を実施）
「幕開き 日本橋 ～東京 2020 文化オリンピックアードキックオフ～」(10月)

Tokyo Tokyo FESTIVALの経緯④

2018
(平成30)

Tokyo Tokyo FESTIVAL 企画公募事業募集(2月)

Tokyo Tokyo FESTIVALプロモーション・ブランディング事業開始

「企画公募事業」選定結果公表(8月)

2019
(平成31/
令和元)

Tokyo Tokyo FESTIVAL コピー、ステートメントを発表(2月)

「オペラ夏の祭典2019-20 Japan⇔Tokyo⇔World トゥーランドット」上演(7月)

「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13」始動(9月)

2020
(令和2)

新型コロナウイルス感染症の流行

都に1度目の緊急事態宣言が発出 (3~5月)

Tokyo Tokyo FESTIVALスペシャル13の企画延期を発表(4月)

2021
(令和3)

都に2度目の緊急事態宣言が発出 (1~3月)

都に3度目の緊急事態宣言が発出 (4~6月)

都に4度目の緊急事態宣言が発出 (7~9月)

東京2020オリンピック競技大会 (7/23~8/8)

東京2020パラリンピック競技大会 (8/24~9/5)

Tokyo Tokyo FESTIVAL 終了(9/5)

東京芸術文化評議会 文化プログラム推進部会 専門委員名簿

氏名	現職等	備考
中村 英正	公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会CFO 企画財務局長	～2018年6月11日
伊藤 学司	公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会CFO 企画財務局長	2018年6月12日～
田口 亜希	公益財団法人 日本財団パラリンピックサポートセンター推進戦略部 プロジェクトマネージャー	
中井 美穂	アナウンサー	
伏谷 博之	タイムアウト東京代表 ORIGINAL Inc. 代表取締役	
三好 勝則	公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京機構長	
吉本 光宏	株式会社 ニッセイ基礎研究所研究理事	

※敬称略

文化プログラム推進部会の実施状況①

回	開催日	議 事
第1回	2018(平成30)年3月6日	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 東京都及びアーツカウンシル東京が主催する主な事業について ◆ 民間等への助成について ◆ 企画公募の審査について
第2回	2018(平成30)年4月18日	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL企画公募の審査について
第3回	2018(平成30)年10月15日	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL の考え方について ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL プロモーション戦略について ◆ 企画公募事業の選定状況等について
第4回	2018(平成30)年11月22日	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Tokyo Tokyo FESTIVALのコンセプトについて ◆ Tokyo Tokyo FESTIVALの都内区市町村事業への対象事業拡大について ◆ Tokyo Tokyo FESTIVALの広報展開イメージについて ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL助成について
第5回	2018(平成30)年12月19日	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Tokyo Tokyo FESTIVALのコンセプトについて ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL 今後の広報展開について

文化プログラム推進部会の実施状況②

回	開催日	議 事
第6回	2019(平成31)年1月18日	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL 日本語ステートメント（案）について ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL 英語コンセプトコピー（案）について ◆ 今後の広報展開について
第7回	2019(平成31)年1月22日	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL 日本語ステートメント（案）について ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL 英語コンセプトコピー（案）について
第8回	2019(平成31年)3月5日	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL 英語ステートメント（案）について ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL 今後のプロモーション・ブランディングについて（案） ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL 助成事業の拡充について（案）
第9回	2019(令和元)年5月20日	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL 今後の広報展開について ◆ 企画公募事業について（報告） ◆ 文化プログラム推進部会での主な議論
第10回	2019(令和元)年8月1日	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL 企画公募事業について ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL 各プログラム数のカウントの考え方について ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL 記録集の制作について ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL プロモーションイベントについて ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL 新ビジュアルのイメージ等について

文化プログラム推進部会の実施状況③

回	開催日	議 事
第11回	2020(令和2)年1月16日	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL 全体プロモーションについて ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13 PRスケジュールについて ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL プログラム冊子について ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL プロモーションイベントについて
第12回	2020(令和2)年9月18日 ※オンライン開催	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL 主要事業等の状況について ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13各企画の方向性 ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL の期間の考え方について ◆ ブランディング・プロモーション施策の見直しについて ◆ 大会延期に伴うブランドポスターの見直しについて
第13回	2021(令和3)年2月2日 ※オンライン開催	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13の延期後実施スケジュールについて ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL プロモーション施策の現状について ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL ブランディング・プロモーション施策について ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL 2021年全体プロモーションスケジュールについて
第14回	2021(令和3)年10月26日 ※オンライン開催	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Tokyo Tokyo FESTIVALの振り返り及び総括とレガシーについて ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL プロモーション・ブランディング事業について ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL 記録集について
第15回	2022(令和4)年2月10日 ※オンライン開催	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Tokyo Tokyo FESTIVALの振り返り及び総括とレガシーについて ◆ Tokyo Tokyo FESTIVAL 記録集について